

- 1 題材名 いろいろな音色を感じ取ろう（8時間）
 教材名 表現（器楽）「リボンのおどり」 鑑賞「祝典序曲」
 表現（音楽づくり）「打楽器でリズムアンサンブル」

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

- A表現（2）器楽 ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
 イ(7) 曲想と音楽の構造との関わり
 (イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
 ウ(7) 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏する技能
 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
 (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
 (3) 音楽づくりア(7)即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
 (イ)音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
 イ(7)いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴
 (イ)音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
 ウ(7)設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能
 (イ)音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
 B鑑賞 ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
 イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
 [共通事項] (1) ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱、呼びかけとこたえ
 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：音色、音の重なり
 ・取り扱う音符、休符、記号や用語：アクセント、ヘ音記号

(1) 題材観

本題材は、前題材の「音の重なりを感じ取ろう」の学習経験を踏まえながら、いろいろな音の響きやそれらが組み合わさったことによる楽器の音が重なり合う響きのよさや面白さについて感じ取ったり、それらを生かして表現を工夫したりする学習である。

材質の異なる楽器の音が重なり合う響きの面白さや豊かさを感じ取れるようにし、それらの組み合わせを工夫することによる響きの変化を楽しみながら演奏したり、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくったりすることができるようにする。曲や演奏についてよかった点を伝え合う活動を取り入れるなどして、曲全体を味わって聴く喜びを感じ取れるようにする。

(2) 指導観

第一次では、器楽「リボンのおどり」で楽器の組み合わせ次第で、いろいろな音をつくる学習を行う。はじめに、各パートの旋律の特徴をつかむ時間を設ける。ピアノ伴奏に合わせて、各パートの旋律を指定された楽器で演奏したものを用意しておき、ギガタブのオクリンクを使って児童に配付する。各々が聴きたいところを手軽に繰り返し聴くことができるため、旋律の特徴に気付きやすくなる。また、全体共有の場でも各パートの旋律の特徴を実際に音で確かめながらまとめることができ、各パートの雰囲気をもより明確に捉えられるようにしたい。主旋律、副旋律、木琴、鉄琴、低音楽器、タンブリン、小太鼓の順で、教科書の楽譜を目で追いながら音を聴かせる。旋律の特徴と雰囲気をつかんだ後、既習曲などから、どのような音の重ね方ができるかを考える時間を設ける。その際、児童から出た意見を板書し、言葉と図でまとめるようにすることで、児童が音の重ね方のイメージをもてるようになる。また、ここでは自分たちのイメージに合わせて楽器の組み合わせや繰り返す回数を自由に決めることができるので、イメージを具現化するために工夫することができる。そのためには、旋律やリズム

の特徴や楽器の音色などを確認する活動の場を設け、旋律の特徴などに十分親しんだうえで音楽づくりに取り組ませたい。そうすることで、児童自身の音楽的な見方・考え方を働かせて、自分たちが納得する音楽に向かっていけると考える。旋律の特徴をつかみ、その特徴にあう楽器を選ぶことは、6年生の「いろいろな音色を感じ取ろう」の学習にもつながるので、旋律の特徴の見つけ方などを丁寧に指導していきたい。

第二次では、音の重ね方に注目しながら「祝典序曲」の鑑賞を行う。いろいろな楽器が交代で主な旋律を担い、楽器の音色や音が重なり合う響きなどから曲想をつかんでいく。注目してほしい旋律のリズムを、「ターアータタタ、ターアータタタ」などと口ずさみ、主な旋律を紹介してから、その部分のCDを再生させることで、主な旋律の音色に着目させたい。

第三次では、器楽演奏、鑑賞と学習を進めてきたことを生かして、音楽づくり「打楽器でリズムアンサンブル」を行う。リズムを選ぶ際には、「この楽器はよく響くから伸ばすリズムを使おう」など、打楽器の音色に着目させたい。「『よびかけとこたえ』は、楽器が会話をしているようだ。」「楽器を増やすと迫力が増す」など、音楽の仕組みを活用しながら、「はじめは盛り上がらせたいから、全員で演奏して、中盤は、『よびかけとこたえ』を使って、一つの楽器を順番で演奏して主役にして、後半は一つずつ楽器を増やしてまた盛り上げたい」など、グループのイメージに合ったリズムアンサンブルをつくっていく。

3 題材の目標

- 音色、リズム、旋律や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、各声部の楽器の音色や楽器の音の重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能や、打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。 (知識及び技能)
- 楽器の音の組み合わせや重ね方を工夫した演奏の仕方や、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (思考力、判断力、表現力等)
- 友達と協働して音を合わせて表現したり、様々な楽器の響きに気を付けてオーケストラの音楽を聴いたりする学習の楽しさを味わって主体的に取り組む。 (学びに向かう力、人間性等)

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解している。	① 楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	① 楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心をもち、パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。
② 知技 楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。	② オーケストラの様々な楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	② 楽器の音色や響きの変化、旋律の交代に気を付けてオーケストラの演奏を聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。
③ 知 曲想やその変化と、楽器の音色や響き、旋律との関わりを理解している。	③ 打楽器の音色やリズム、音の重なり、反復、呼びかけと	③ 打楽器の音色の組合せやリズムの重ね方に興味・関心をもち、反復や呼びかけとこたえ、変化を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。
④ 知技 打楽器の音の響きやそれらの組み合わせが生み出すよさや面白さを理解し、即興的に音色やリズムを選んだり組み合わせたりして表現する技能を身に付けてつくっている。		

⑤ 【知技】 リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて理解し、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。	こたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。	
--	--	--

5 研究の視点

【視点2】音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立て

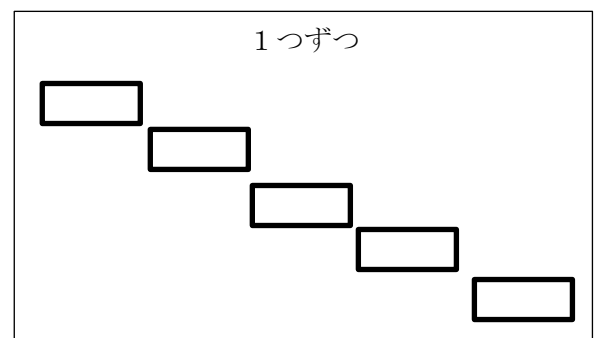
○学習環境の工夫

- ・各パートの旋律を、ピアノ伴奏に合わせて演奏したものを用意

各パートの旋律の特徴をつかめるよう、事前にピアノ伴奏に合わせて、楽器を演奏したものを録音し、全パートをギガタブのオクリンク上で児童と共有しておく。自分のタイミングで繰り返し聴くことができるので、一つのパートに集中して聴いたり、自分の演奏との重なりを確かめたりすることが容易になり、音色や音の重なりを意識して演奏することができるようになると考える。

- ・各パートの旋律の特徴を、言葉と図でまとめたものを掲示

音の重ね方のイメージをもたせるために、児童から出た意見を画用紙に言葉と図でまとめる。音の重なり方の図から重ね方のヒントを得られるように、言葉と図でまとめたものを掲示しておく。いつでも見られるようにしておくことで、音楽的な見方を働かせることができると考える。



○指導計画の工夫

グループのイメージに合った音の重ね方ができるよう、試行錯誤する時間を多く設定する。まず、旋律の特徴をつかむために、ギガタブに各パートの旋律を録音したものを用意しておき、各パートの特徴を理解する時間を設ける。その後、音の重ね方のイメージを考え、グループで共有し、イメージに合った音を選ぶ時間を設ける。各パートの旋律の特徴や音の重ね方を十分理解したうえで、自分たちのイメージに合う音を選ぶようにすることで、音楽的な見方・考え方を働かせることができると考える。

【視点3】評価の在り方

○オクリンクの録音機能を活用

自分たちの演奏を客観的に聴くことができるように、音の重ね方がある程度形になった段階で、自分たちの演奏をオクリンクの録音機能で録音し、グループで共有する。自分たちのイメージに合った音をつくることができているか、録音した音を確認することで、自己評価をしながら試行錯誤することができる。と考える。

【コロナ対応として】

- ・各グループの演奏の立ち位置がわかるよう、足場の印をつける。
- ・リコーダーを選択した場合は、飛沫対策にリコーダー専用のタオル等をもたせ、譜面台を壁向きに設置し、向かい合わないよう気を付ける。

6 題材の指導計画及び評価計画（8時間扱い）（本時3/8）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素、 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童（生徒）の姿	評価規準 （評価方法）		
				知 技	思	態
◎楽器の音色の重ね方を工夫して演奏する。				①知 （記述・発言） ②知技 （聴取・記述・発言） ①（記述・発言・観察） ②技 （聴取）		
第一次	第1時	○各パートの旋律の特徴をつかみ、各パートのイメージを膨らませる。 ・各パートの階名を読み、特徴を考える。 ・アクセントについて知る。 ・へ音譜表の読み方やへ音記号について知る。 ○各パートの旋律の練習をする。 ☆〔音色、音の重なり、(アクセント)〕	○各パートの旋律の特徴を板書でまとめる。 ○階名が読めない児童には、階名が書いてあるカードを渡す。 ・各パートの旋律の特徴を考え、発言したりワークシートに書き込んだりする。 ○各パートの旋律を録音したものをオクリンクで配る。			
	第2時	○どのような重ね方ができるか、既習曲などから考える。 ・全員で鳴らす　・一つずつ鳴らす ・追いかけるように鳴らす ・だんだん増やす ・だんだん減らす ○グループでパートの重ね方を考える。 ・どのように演奏したいか、グループでイメージを話し合う。 ・始めは、全員で迫力のある感じにして、真ん中は会話しているような感じで、終わりに向かって盛り上げていきたい。 ○パートを決めて練習する。 ☆〔音色、音の重なり〕	○どのような重ね方ができるか、出た意見を言葉と図でまとめる。 ・全員で重ねると迫力があること、楽器をだんだん増やすと盛り上がってくることなどに気づき、発言している。 ○パートの重ね方の参考になるよう、各パートの旋律の特徴をまとめたものを黒板に提示する。 ○グループごとに楽器を用意し、実際に音を鳴らして、イメージと合っているか確認するよう促す。			
	第3時 本時	○グループのイメージに合った「リボンのおどり」をつくる。 ・グループごとに練習をし、イメージと合っているか確かめる。 ・中間発表をする。 ☆〔音色、音の重なり〕	○グループ練習では、演奏した音が自分たちのイメージに合っているか振り返ることができるよう、ギガタブに録音させる。 ・旋律の特徴を考えながら、イメージに合ったパートの重ね方を考えている。			
	第4時	○グループで工夫したパートの重ね方を発表する。 ・低音が支えになって盛り上がるようにする。 ☆〔音色、音の重なり〕	○発表するグループのワークシートをTVに映し、重ね方が視覚的にわかるようにする。 ○楽器の数がどうなっているかなど、聴く側に聴く観点をもたせる。 ・打楽器を中心にだんだん盛り上がっていた。			①（観察・記述・発言）
◎オーケストラのひびきに親しむ。				③知 （観察、記述）		②（行動・発言）
第二次	第5時	○主な旋律を演奏する楽器の音色や響きを感じ取って聴く。 ・曲全体を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートにまとめる。 ☆〔音色、旋律〕	○感じ取ったことと聴き取ったことを分けて板書することで意見を整理しておく。 ・始めと終わりが力強く華やかに感じたのは、金管楽器がファンファーレを演奏していることをワークシートに記入する。			

	第6時	○楽器による響きの変化を味わいながら曲全体を聴き、紹介文を書く。 ・楽器による響きの変化を味わいながら、曲全体を通して聴き、その面白さを紹介文に書いて伝え合う。 ☆〔音色、旋律〕	○机間指導しながら、そう感じた根拠は何かを尋ね、感じ取ったことと聴き取ったことを結びつける。 ・聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。		② (記述、発言)	
◎打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくる。						
第三次	第7時	○いろいろな楽器の響きや音色の組合せを楽しむ。 ・トライアングルはよく響くから、長く伸ばせるリズムがよいなど、音の特徴に気を付けながら、グループごとにアンサンブルに使う楽器を選ぶ。 ・選んだ楽器を使ってリズムを重ねて演奏し、響きの組合せを確かめる。 ☆〔音色、リズム、音の重なり、反復、よびかけとこたえ、変化〕	○材質の違いを意識して選べるように、材質ごとに楽器を並べて置き、楽器を選ぶ際には、材質の違いに気を付けて楽器の組み合わせを工夫できるよう、実際に音を出す活動を設ける。 ○受け持つリズムを入れ替えて、響きの感じの違いを確かめたり、リズムに合わせて鳴らし方を変えたりするよう、代表グループの演奏をもとに説明する。 ・打楽器の音の響きやそれらの組合せが生み出すよさや面白さを理解し、即興的に音色やリズムを選んだり組み合わせたりして表現することができる。	④ 知技 (観察、演奏、発言)		
	第8時	○反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係について知り、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。 ・だんだん盛り上げたいから、楽器を増やして音も大きくしてみよう。 ・楽器の音色がよく聴こえるように、一つの楽器だけのところを一回ずつ入れてみよう。 ・音楽の仕組みに気を付けながら、いろいろな重ね方を試す。 ☆〔音色、リズム、音の重なり、反復、よびかけとこたえ、変化〕	○実際に音を試しながら確認できるよう、ギガタブに作った音を録音させる。 ・選んだ楽器とリズムを使い、音の重なりや響きを試しながら、音楽の仕組みを生かして、自分たちのリズムアンサンブルをつくっている。	⑤ 知技 (発言、記述)	③ (記述、演奏)	③ (行動、発言)

7 本時の指導（3／8）

（1）本時の目標

パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素〕	○教師の働きかけ・目指す児童（生徒）の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 ＊コロナ対応（場の設定や支援、配慮事項等）
1 「リボンのおどり」の指導用CDを聴き、重ね方の工夫を思い出す。 2 本時の目標を確認する。	○前時で学習したパートの重ね方（言葉と図でまとめたもの）を提示し、いろいろな重ね方があることを想起させる。
パートの重ね方などを工夫して、自分たちの「リボンのおどり」を演奏しよう。	
3 どのような演奏をしたいか、イメージをグループで確認し、練習をする。 ・低音で全体のひびきを支えて一回ごとに変化を付けたい。 ・打楽器を介していろいろな楽器の音色を出してみたい。 ・始めは全員で迫力のある感じにして、真ん中は会話しているような感じで、終わりに向かって盛り上げていきたい。 ☆〔音色、音の重なり〕 4 2グループずつペアになり、中間発表する。 （聴く人） ・楽器が増えていったので、盛り上がる感じがしてよかった。 （演奏する人） ・会話をしている感じが伝わるように、音の大きさに気を付けたい。 5 今日の学習を振り返る。 ・友達のグループのよかったところや、自分たちの改善点などをワークシートに書く。 ☆〔音色、音の重なり〕	○グループのイメージに合っているか、演奏をギガタブで録音し、発表ノートのワークシートを見ながら確認させる。 ○話し合った内容は、実際に楽器を鳴らして試しながら確認させる。 ・話し合っただけの意見を、実際に楽器を鳴らして試し、さらによいアイディアはないか考えている。 ○旋律の特徴を考えて楽器を選べるよう、各パートの特徴をまとめたものを黒板に提示する。 ＊リコーダーを使用する場合は、距離をとれるよう、足場に印をつける。 ○他のグループの音が混ざらないように、録音する場（別室）を設ける。 ○発表する人は、グループのイメージが伝わるように演奏するよう声をかける。聴く人は、「どのような重ね方をしているか」「どのような感じがしたか」を考えながら聴けるよう、聴く観点を板書する。 ・思いや意図をもって演奏している。 ◇パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 （思考・判断・表現） 〈ワークシート〉

♪リボンのおどり

5 年 組 番 名前

☆各パートの旋律の特徴を考えよう。

パート	とくちょう 特 徴	ふんいき 雰 囲 気
1		
2		
木 琴		
鉄 琴		
低音楽器		
タンブリン		
小太鼓		

♪リボンのおどり②

5 年 組 番 名前

☆自分の担当する楽器

--

☆演奏するときに、どんなことに気をつけたいですか。

--

☆自分たちの演奏を聴いたり、他のグループの人から感想を聞いたりして、どう思いましたか。グループのイメージに合った演奏をするために、次は、どのように演奏したいか、振り返りましょう。

--